

鎌倉楽しむ会

第三五回例会資料

鎌倉の名族

(源氏・北条・足利・上杉について)



「鎌倉楽しむ会」企画責任者 清藤 孝

鎌倉の名族

鎌倉は、一一八〇（治承四）年十月に

源頼朝（一一四七～九九）によって開か

れた都であることは、すでに十分承知

されていることです。

頼朝の妻・政子（一一五七～一二二五）は

北条氏という氏族の出身で、この北条氏が、

将軍の補佐役である執権（現在の首相的存

在）・連署（執権の補佐役）を勤めてきた。

さらに、北条氏が、「源氏将軍」が三代（頼朝、頼家、実朝）で滅んだ以後も、権力を握り続けていった。

この源氏と北条こそが、鎌倉時代の鎌倉の武士を代表する氏族であり、鎌倉の寺院などの史跡には、源氏あるいは北条家の檀那（後援者）とするものが多い。

たとえば、鶴岡八幡宮は源氏を檀那とし、建長寺・円覚寺は北条氏を檀那としている。そして、鎌倉は、武家の「首都」として、正慶二年（一三三三）新田義貞の鎌倉攻撃によって鎌倉幕府が滅亡するまでであり続けた。

ところで、鎌倉幕府が滅亡すると、鎌倉は衰退し、ゴースト・タウンとなったと考えられがちだが、けっして、そうではない。

足利尊氏が京都に室町幕府を開くと、室町幕府は東国を管轄するため、「鎌倉府」を（関東府ともいう）鎌倉に設置し、その鎌倉府の長を「鎌倉公方」と称して、足利尊氏の四男基氏が一三四九（貞和五）年七月に鎌倉にくだってきて就任し、それ以降、彼の子孫がその地位を継承してきた。そして、鎌倉は地域の中心として、いわば鎌倉府の中心の都として少なくとも一五世紀の半ばまでは繁栄を続けた。

*この場合の東国とは、相模・武蔵・安房・

上総・下総・常陸・上野・下野・甲斐・伊豆の

十カ国（後には東北地方の陸奥・出羽を加え

て十二カ国）、すなわち、現在の関東地方と

山梨・静岡県のことである。*

そして、この鎌倉公方の補佐役である関東

管領には、一三六四（貞治三）年以来、上杉

氏が世襲的に任命されてきた。

上杉氏の名称が歴史に表れるのは、鎌倉

幕府・五代執権北条時頼の時代に、一二五

二（建長四）年、第六代将軍として、

宗尊親王（一二四二〜七四）が鎌倉に迎え入

れられた。その際、宗尊親王に従って関東に

下向してきたのが、丹波上杉荘（京都府）

という荘園（一種の私有地）を賜っていた

中級貴族の「藤原重房」である

この「藤原重房」が、それ以後、荘園の

名をとって「上杉氏」を名乗り、子孫は鎌倉

時代には執事であり、室町時代（一三三五〜

一五七三）には関東管領に任命されるという

名族の一つとなった。このように、室町時

代における「鎌倉」を代表する氏族は、足利氏

と上杉氏とである。また、寺院やほかの史跡

にも足利氏あるいは上杉氏を中興檀那（中興

者）とするものが多い。たとえば、「瑞泉寺」

は足利基氏が中興者であり、「明月院」は

上杉家五代目の上杉憲方（一三三五〜九四）

が檀那である。

以上の「源氏」「北条氏」「足利氏」、

「上杉氏」の四氏こそは、中世都市・武家の

古都を理解する鍵となる氏族であり、そうし

た氏族と鎌倉との関係に注目しながら鎌倉

散策を楽しんでいただきたいと思います。

完